地域教育情報誌　第５０号　　平成２０年(2008年)　５月２７日（火）

エリア ウェッブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL　0553-20-2737
FAX　0553-20-2733

◎ 回覧・配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html
◎ ご意見・ご感想はこちらまで　Email：　saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

「最近思うことをつれづれに」

峡東教育事務所副所長　廣野　政明

「山梨ことぶき勧学院・大学院」の入学式に出席した。また，「山梨ことぶき勧学院東八代学園」の開講式にも出席した。

私から見ると大先輩の方々ばかりであるが，その姿勢といい口調といい元気はつらつである。学びの意欲や活動する喜びに満ちあふれていて，また，人とのふれあいを求め，皆さんの目が輝いていた。年を重ねても心は生涯「若者」であると感じた。

坂口安吾の「魔の退屈」ではないが，自分の本当の思いや生き甲斐に突き進んでいる感がする。

人間の生きる喜びがそこにあるように思えた。

赤ちゃんはなぜ人間になれるのか。

まずは，身近にいるものの真似をするからであろうか。そう考えると身近にいる親や兄弟，お祖父ちゃんやお祖母ちゃんの役割も大切である。良くも悪くも真似をするし教えられたことには従うだろう。

片方，赤ちゃん自らも体験から学ぶだろう。畳の感触や布団の柔らかさ，食べ物の味や食感，痛さや心地よさなどなど。

「人間」という文字のごとく赤ちゃんは，様々な人たちの間で人間になる。

そして，手塩にかけた我が子ほど大切なものはない。「自らの生活を犠牲にしてでも」という気持ちにもなる。

四川大地震の犠牲にあった母親が，我が子をかばって亡くなる寸前に携帯電話に残した言葉，「わがかわいい子よ，もしあなたが生きられるのなら，ママを忘れないで，ママはいつまでもあなたを愛しているのよ。」このニュースを聴いて思わず目が潤んでしまった。

初任者研修授業実習校の開講式であいさつする機会があった。

峡東地区の小学校に採用された５名の新採用の先生方には，「子どもたち一人一人を我が子を愛するように大切にして欲しい」「誠実であって欲しい。」ということを，また，「今，世の中で『学力の向上』が叫ばれているが，『知・徳・体』のバランスのとれた教育をすすめて欲しい。」とお願いした。

ややもすると忘れがちになる「人を大切にする心」「誠実さ」を教員自らが持ちながら，より一層の学力の向上に取り組んでくれることを期待してやまない。

私の家の前を小学生が集団登校する姿を時々見る。楽しそうに話をしていたり高学年生が下級生を指導していたりする。その先の交差点では，近くに住むおじさんが黄色い帽子をかぶり黄色い旗を持ちながら子どもたちの横断を手伝ってくれている。また，いろいろと話しかけたりもしているようである。

おじさんは全くのボランティアである。

子どもたちからは元気のよい「おはようございます」「ありがとうございました」の声も聞こえてくる。

いつの日だったか我が家の前を通り過ぎる小学生や帰宅途中の自転車に乗った中学生から，「おはようございます」「こんにちは」という声を聞くことがあった。庭に出ていた私はその瞬間声の聞こえる方を振り返えり，あいさつを返した。ふさいでいた心も癒えた。

前任校でことあるごとに全校生徒に次のことを訴え続けてきた。

「学校生活を送る上での基本的な心構え」として「絶対して欲しいこと三項目：さわやかなあいさつ，場に応じた服装や言葉遣い，人の話は静かに聞く」，「絶対してはいけないこと３項目：人や物（命）を傷つけること，ものを盗むこと，嘘をつくこと」である。

言い続けることで生徒に変化が現れた。

これらの内容は，尊敬する S 先生から常々教えられてきたことであった。

いくつになっても人は，いろいろな人の間で育つものであると思った。

子どもを動かすことば

私の知り合いで，とても学級経営が上手な先生がいます。

ある放課後，「先生のクラスの子どもたちは本当に素直で明るく，まとまりがあって，何事にも前向きですね。学級づくりに何か秘訣があるのですか。」と訊ねました。すると，「特別なことはしていないんですけど・・・，あえて言うなら・・・。」と，しばらくしてから明かしてくれました。

・・・というのは，こうです。

その先生は，子どもたちに何かをさせたいと思うとき，「○○○　しよう。」とか「一緒にやろうか。」と言うのだそうです。その反対に，決して「○○○しなさい。」とか，「 ○○○してください。」というような言い方はしないとの事でした。

もっと何か特別な秘訣でもあるのかと期待していた私は，やや拍子抜けしました。そのようなやさしい言い方で，素直で自主性のある子どもが育つものかという思いが消えませんでした。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

それからしばらくして，ある母親から，「幼少時にはあんなに素直だったわが子が，小学校高学年から中学生になるにつれてなぜ反発するようになってしまうのでしょう。」という相談を受けました。

母親の話によると，その子は，幼い頃は「おもちゃを片づけなさい。」「食事の後片づけをしなさい。」「宿題を済ませてから遊びなさい。」という母親のことばに素直に従う『よい子』だったそうです。ところが，成長するに連れて返事が曖昧になり，行動が面倒くさそうになって，やがては従わないどころか反発するようになっていったということです。

同じようなことは，学校においてもしばしば見られます。相談を受けた私自身も，いかにして『好ましい行動』へと子どもを導くかに奮闘している最中でした。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

そんな状況でしたから，あの先生の「○○○しよう。」ということばについて考え直しました。

そこで，思い至ったことは，その母親も私も，親や教師としての権威を背景に，子どもに向かい合ってきたのではなかったかということです。

『誰だって権威をかざして言われたら嫌な感じがする，子どもだって同じではないだろうか。』ということです。

そういえば，家庭内においても思いあたることがありました。

社会人になった息子が帰省した際，親戚に挨拶に出かけるというので，「ネクタイくらい締めていけばいいだろ。」と，やや命令口調で言ったところ，「また，その言い方だ。」と，小声で言い返されたことがありました。

二人の間に，一瞬気まずい空気が流れたことをおぼえています。

幼い頃には，「○○○しなさい。」ということばを抵抗なく受けとめていた子どもたちも，いつの間にか成長していて，自我を自覚するようなると，人から命令的に，頭ごなしに言われると自我を傷つけられたような気がして反発するのでしょう。子どもたちから見れば，金や地位，腕力のある大人は力の象徴です。

幼少の頃にはそれらの力は頼もしく感じられていたものが，成長とともに，時には自分を抑制し，時には自我を否定するかのような疎ましい存在に思われるのです。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

権威・権力に反発するそのような感情は，大人になる過程で誰もが経験してきたはずなのに，いざ大人になってしまうと忘れてしまって，いつの間にか反対の立場で同じ思いを子どもたちに味わわせているのかもしれません。

あの先生が発する，「○○○　しよう。」，「一緒にやろうか。」ということばは，子どもたちの自我を尊重する表現だったのです。

子どもたちは自分を対等なまなざしで見つめ，尊重してくれる先生に対してその提案を素直に受けとめることができたのでしょう。

「地域ぐるみの学校安全」

～ ２００８年度スクールガード・リーダー委嘱式が行われました ～

／４月１６日

５月３日，またもや愛知県豊田市で，高校に入学したばかりの女子高生が下校途中で殺害されるという痛ましい事件が起きてしまいました。

このような事件が全国各地から報告されており，子どもたちが安心して生活し学習できる地域づくりが急務であることを痛感します。

それと同時に，このような報道に接する度に感じることは，犯罪の意図をもってやって来る人物から，とっさに逃れたり撃退したりすることがどんなに難しいかということです。

スクールガードは，このような社会の要請から生まれた（学校安全ボランティア）組織です。

スクールガードリーダーとは・・。

児童・生徒を対象にした防犯活動で，スクール-ガード（学校安全ボランティア）を統率して指導・助言を行う人をいいます。

甲州市，山梨市，笛吹市スクールガ゛-ト゛リーダーの皆さん

鶴田幸男さん　林 正文さん　長田明雄さん
河西悦夫さん　千葉勝悦さん　小林一夫さん

戸泉重雄さん（左）
武藤義仁さん（右）

～ 勝沼中農業体験学習 ～

５月１６日（金），１９日（月）の２日間，甲州市立勝沼中学校２年生による「農業体験学習（ジベ処理援農）」が行われました。４１年目となる伝統行事に，今年も，１０７名の２学年生徒全員が，初夏のさわやかな日射しの下，各ぶどう園に分かれて一生懸命農作業に取り組んでいました。

隣のぶどう園では，女生徒３人がお茶をいただきながら一休みしていました。ジベ処理作業の感想を尋ねると，

「農家の人の役に立ててうれしいです。」と明るい声が返ってきました。農家のおじさんおばさんも，「本当に良くやってくれます。」と目を細めていました。

～ こすもす館の親子遠足 ～

５月２１日，２２日の２日間，甲州市にある子育て支援センター「こすもす館」の親子遠足が，笛吹川フルーツ公園と万力公園で行われ，両日合わせて３６組の親子が参加しました。

遊具や動物園で，思い思いに自由遊びをした後，芝生にある木陰に集まって，専任の先生の指導で，「人形劇」や「エプロンシアター」，「お遊技体操」，「ゲーム」などの集団遊びを楽しみました。

一緒に歌ったり踊ったりするうちに，自然と子育ての輪が広まっていくようでした。

≪峡東地区 子育て講演会 ご案内≫

平成２０年７月４日（金）受付２時４５分～　開会３時１５分　閉会４時５５分

会場：山梨市民会館　３階「大集会室（千鳥の間）」

『勇気づけの子育て入門』
～乳児期から思春期まで～

早稲田大学文学部・山梨医科大学医学部（現在の山梨大学医学部）を卒業され，幅広い見地と臨床医としての豊かな経験をもとにカウンセリングやアロマセラピーなどで活躍されている，

坂本　玲子　先生 による，子育て講演会を開催します。

「子どもができたことをほめる，ということを大切にする」，「脳神経発達と遊びとの関わり」など，身近で今すぐ役立つ“子育てのポイント”を分かりやすく，楽しくお話ししてくださいます。

ご多用の折とは存じますが，是非ご参加いただき，教育問題の共通した大きな柱である「子育て」についての学習の機会としていただきたくご案内いたします。

１．講 師　坂本　玲子　先生（山梨県立大学人間福祉学部准教授）

静岡県浜松市生まれ，山梨医科大学医学部卒業後，同大精神神経科に臨床医として勤務。平成９年より山梨県立大学（当時の山梨県立女子短期大学）准教授。大学でのカウンセリングの他，県のスクールカウンセラー，子育て支援カウンセリングなどにも従事。専門は認知療法を中心とした精神療法・カウンセリング・健康保養医学（アロマセラピー）。

２．申し込み方法

６月２０日(金)までに，チラシにある申込先または，峡東教育事務所（TEL.0553-20-2737），峡東地域各保幼・小・中・県立学校までお申し込みください。

【峡東歳時記】　端午の節句

甲州市「大藤保育所」にて

４月下旬，幼稚園，保育園を訪問した際，手作りの小さな鯉のぼりを手にした園児が明るい日射しの中を元気に走り回る姿が見られました。

急流を遡る鯉は出世魚として考えられ，鯉のぼりは，子どもの立身出世の象徴として，江戸時代から盛んに立てられるようになったそうです。

端午の節句の起原は，古代中国に遡ります。

「端午」とは，五月の最初の午の日と言う意味です。最初は必ずしも五月五日ではなかったようですが，やがて５が重なる重五の日に大切な厄払いの日として定着しました。